

「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和4年2月10日（木）午後1時30分から午後3時25分
- 2 開催場所 県庁（正副議長）、県庁・大学及び自宅等（委員、議員、大学生）
- 3 出席者
＜参加学生＞
信州大学2名、長野県看護大学4名、長野大学1名、長野県立大学2名、
松本看護大学2名、飯田女子短期大学1名、信州豊南短期大学2名、松本短期大学2名
Deakin University 1名 計17名
○宮本 衡司議長、清水 純子副議長
○広報委員 宮下 克彦議員、寺沢 功希議員、清水 正康議員、和田 明子議員
○会派選出議員 丸茂 岳人議員、望月 義寿議員、小山 仁志議員、毛利 栄子議員
- 4 開催内容 議場説明、意見交換・懇談、意見・感想等の発表
- 5 意見交換会テーマ
＜Aグループ＞
 - ・子育て支援・介護支援について
 - ・若者の政治への参加について
 - ・コロナ禍の大学生の生活実態と行政に求める支援
 - ・県議会の広報について＜Bグループ＞
 - ・子育て支援・介護支援について
 - ・地域活性に向けた移住・定住促進について
 - ・コロナ禍の大学生の生活実態と行政に求める支援
 - ・県議会の広報について＜Cグループ＞
 - ・気候変動・環境問題に対応した環境教育について
 - ・情報バリアフリー社会の実現について
 - ・コロナ禍の大学生の生活実態と行政に求める支援
 - ・県議会の広報について＜Dグループ＞
 - ・若者の政治への参加について
 - ・地域活性に向けた移住・定住促進について
 - ・都市部と地方の格差
 - ・県議会の広報について＜Eグループ＞
 - ・気候変動・環境問題に対応した環境教育について
 - ・情報バリアフリー社会の実現について
 - ・都市部と地方の格差
 - ・県議会の広報について
- 6 参加者 27名（議員10名、学生17名）



○開会

(司会：清水副議長)

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」を開会したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、本日の司会を務めます、長野県議会副議長、広報委員会委員長の清水純子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(清水副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、初めに、宮本衡司議長から、ごあいさつ及び県政報告を申し上げたいと思います。

宮本議長、よろしくお願いいたします。

(宮本議長)

御紹介をいただきました長野県議会議長の宮本衡司であります。本日は、「こんにちは県議会です」に、県下各地から大勢の皆さんに御参加をいただきありがとうございます。

私たち県議会には、県民の皆さんの思いを県政に反映させたり、県政の適正な執行を監視するという役割があります。本日は皆さんの意見や考え方をお聞きし、今後の議会活動に活かしてまいりたいと考えています。

今回は、オンラインでの開催といたしました。この理由は、コロナ対策はもちろんですが、それよりも、南北に長い県内から、距離等にかかわらず、大学生・短大生の皆さんが参加しやすいようにということでオンラインとしたものです。

少し時間をいただいて、議会の活動の一部を、二つの事例で紹介したいと思います。

初めに、大学・短大と議会の連携した取組です。県内の各大学・短大と県議会は、包括連携協定の締結を進めてきています。この協定により、今回の意見交換をはじめ、議会が行う政策形成や調査研究において連携・協力を行ってまいります。

次に、議会が行う政策形成の取組を紹介します。現在、少子対策に関わる条例を議会側で検討しています。少子化は、社会に大きな影響を及ぼしかねない喫緊の課題です。そこで、実行性ある対策を具体化するための条例を、調査会を設けて検討していきます。県民の意見も聞きながら、今、まさに案をまとめているので、間もなく提案ができるものと思います。ぜひ、注目していただきたいと思います。

さて、本日は、皆さんが日々の学びや生活の中で感じていること、考えていることなど、率直な意見交換ができればと、参加議員一同大変楽しみにしております。18歳から選挙権があるようになって5年が経過いたしました。本日の経験を契機に、皆さんが一層県議会や県政に対する関心を深め、自分自身

が長野県づくりに参加するという気持ちを持っていただくことを期待しております。

本日は、どうぞよろしく願いをいたします。

○出席議員自己紹介

(清水副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。はじめに、広報委員です。

宮下克彦広報委員会副委員長さんお願いいたします。

(宮下議員)

皆さん、こんにちは。私は、副委員長の仕事を務めております、諏訪市選出の宮下克彦です。よろしくお願いいたします。

(清水副議長)

続いて、寺沢功希議員、広報委員さんです。

(寺沢議員)

安曇野市選出の寺沢功希です。よろしくお願いいたします。

(清水副議長)

続いて、清水正康議員お願いいたします。

(清水議員)

上伊那郡区選出の清水正康です。よろしくお願ひします。

(清水副議長)

続いて、和田明子議員お願いいたします。

(和田議員)

長野市・上水内郡選出の和田明子です。どうぞよろしくお願ひします。

(清水副議長)

続いて、会派選出議員の丸茂岳人議員お願いいたします。

(丸茂議員)

茅野市・富士見町・原村選出の丸茂岳人です。どうぞよろしく申し上げます。

(清水副議長)

丸茂議員は、自由民主党県議団から選出されております。

続いて、改革・創造みらい 望月義寿議員お願いいたします。

(望月議員)

長野市・上水内郡区選出の望月義寿です。どうぞよろしくようお願いいたします。

(清水副議長)

続いて、県民クラブ・公明 小山仁志議員お願いいたします。

(小山議員)

皆さん、こんにちは。佐久市・北佐久郡区選出の小山仁志です。どうぞよろしくようお願いいたします。

(清水副議長)

続いて、日本共産党県議団から毛利栄子議員お願いいたします。

(毛利議員)

こんにちは。岡谷市・下諏訪町選挙区選出の毛利栄子と申します。どうぞよろしくようお願いいたします。

(清水副議長)

ありがとうございます。

参加議員の紹介は以上であります。

今回参加いただいた学生の皆様につきましては、大変、恐れ入りますけれども、先日、メールにより配付をいたしました名簿により御紹介に代えさせていただきたいと思っております。

○議場説明

(清水副議長)

続きまして、私たち議員が、議会の本会議を行っている議場から、議会の概要を聞いていただきたいと思っております。

議場説明を担当する寺沢議員、清水議員お願いいたします。

(寺沢議員)

今、私たちは議場にいます。改めまして、広報委員の寺沢功希です。

(清水議員)

同じく、広報委員の清水です。

(寺沢議員・清水議員)

どうぞよろしくお願いいたします。

(寺沢議員)

さて、清水さん。ここ議場では、議員全員が参加する本会議が開かれていますよね。

(清水議員)

はい。ここで、議会の全てのことを決めます。

(寺沢議員)

ここで、議会の審議の流れを簡単に紹介していきましょう。

(清水議員)

はい。まず、この議会ですけれども、明治12年の3月、第1回目の議会から数えまして、これまで、422回を行っております。この本会議場では、議長の進行で、初めに知事から条例や予算などの議案の説明があります。

(寺沢議員)

あの緑色の台のある演台で、知事は発言をしますよね。

(清水議員)

はい。知事の説明を受けて、議員から、議案やその他、県の仕事について質問を行います。

(寺沢議員)

私たち議員も同じように、席は手前にありますが、質問は演台で行います。

さて、突然ですが、ここで皆さんに質問です。長野県に、県議会議員は一体何人いるか知っていますか。

(清水議員)

画面を見ると、口を動かしてくれた人もいますが、100とか言っている人がいましたね。

(寺沢議員)

それは多いですね。

(清水議員)

少し多いですね。はい、今現在、23の選挙区から57人が選出されております。

(寺沢議員)

議員それぞれが地域のことや長野県全体のことについて、質問や提言を本会議の場でしていきますね。

(清水議員)

はい。本会議での質問・答弁の後は、さらに詳しく審査をするために、分野ごとに八つに分けられた委員会に議案を振り分けて審査を行います。そして委員会としての結論を出します。

(寺沢議員)

これが委員会での審議の様子ですね。

(清水議員)

そうですね。そして、最終的に本会議で委員会の審査結果を報告して議決を行います。賛成多数で可決されれば議案が成立し、これでやっと県の施策として実行することができるようになります。

(寺沢議員)

これが議会が県の意思決定機関といわれる理由ですね。

(清水議員)

はい、そうですね。

(寺沢議員)

ところで清水さん、条例などの議案は知事からだけではなく、私たち議員から提案することもありますよね。

(清水議員)

そうですね。最近、制定した条例では、例えば、昨年度、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目標に掲げた「ゼロカーボン条例」を議員提案で決定しました。また、本年度、歯と口の健康づくりで健康長寿を目指す条例も、議員の提案で決定しております。

(寺沢議員)

私たち議員は、県の仕事については条例を制定できますし、国の仕事については要望を行うこともできますね。

(清水議員)

はい。国への要望は、意見書という形で議会で審議をして、可決したものを国へ提出しています。例えば、昨年、熱海市で発生した土砂災害を受け、盛土の安全性に関する法整備を求める意見書や、最近の原油価格高騰への対策を求める意見書などを国へ提出しています。

(寺沢議員)

いずれも国民の命と暮らしを守るための対策を求めたものでしたね。

(清水議員)

はい。

(寺沢議員)

さらに県民の皆さんなどからの要望や意見も、請願書、陳情書という書面でいただいて審議されますよね。

(清水議員)

はい、そうですね。皆さんの声を、県の行政へ反映させる大切な手法の一つです。

(寺沢議員)

以上のように、定例会では、知事提出議案、議員提出議案、県民の皆さんなどからの意見を審議しています。皆さんには、県の課題を解決したり、県の良いところをより良くするために、県議会の果たしている役割を理解していただけるとうれしいですね。

(清水議員)

そうですね。

(寺沢議員)

以上で、議会の紹介を終わります。ありがとうございました。

(清水議員)

ありがとうございました。

(寺沢議員)

副議長にお返しします。

○進行方法の説明

(清水副議長)

ありがとうございます。とてもすばらしい説明、本当にありがとうございました。

続いて、意見交換に入っていきたいと思います。意見交換の進行方法について、私から説明をいたします。

これから、五つのグループに分かれて意見交換を行ってまいります。グループごとに、学生の皆さんから出された二つのテーマ及び議会からお聞きしたい二つのテーマについて意見交換をお願いします。意見交換の時間はおおむね50分程度ですので、1テーマを10分程度で進めていただければと思います。進行は各グループの広報委員の皆さんが行いますので、皆さん、ご協力よろしく願いいたします。

意見交換の後、14時35分頃から、各グループで出た意見等について、学生の代表者の皆さんから発表していただくとともに、同じグループの広報委員から、もう一言最後に感想をいただきたいと思います。この発表時間は、学生・委員合わせて6分程度でお願いをいたします。意見交換の進行についての説明は以上です。

本日実施した内容については、録音・録画させていただいて、概要を文書で取りまとめて、写真等とともに後日、県議会のホームページに掲載するなど、議会の広報として活用をさせていただきますので、皆さん、御了承よろしく願いいたします。

なお、今回はオンラインということで、万全の準備はしておりますけれども、場合によって御不便をおかけすることがあるかもしれませんけれども、皆さんの御理解と御協力をよろしく願いいたします。

清水議員、寺沢議員、お席に着きましたね。

それでは、事務局でグループ分けを行ってください。お願いいたします。

(事務局)

これからAからEのグループに分かれていただきます。画面にメッセージが表示されましたら、「参

加する」のボタンを押してください。そうしますと、各グループの画面に切り替わります。各グループの広報委員の皆さまは、メンバーがそろったことを確認していただき、意見交換を開始してください。事務局のグループ担当者もメンバーがそろったことの確認をお願いします。時間は50分間です。残りの時間が画面右上に表示されますので、参考にして進行してください。

それでは、各グループに分かれます。広報委員の皆さまは、グループの進行をお願いいたします。

○意見交換・懇談（A～Eの6グループに分かれて）

○意見・感想等の発表

（清水副議長）

皆さん、グループディスカッション御苦労さまでした。どうでしたか。盛り上がりましたか。

それでは、グループごとに、その様子を6分間程度で、発表担当の学生さんと、そして広報委員の方から一言、意見交換の内容や感想を発表していただきたいと思います。

それでは、Aグループから発表担当の学生さん、どうぞよろしくをお願いします。

（Aグループ学生①）

私たちのAグループは、保育士、介護福祉士の待遇、人材不足についてそれぞれ考えて、話し合いました。実際に保育と介護は共通して、身体的にも精神的にも簡単な仕事ではありません。資格を取得して専門的な知識を得て仕事に就いたとしても、それに見合った給料や働く環境が整っていないことについて話し合いました。

次に、若者の政治への参加について話し合いました。18歳、19歳の若者の投票率が少ないこと、政治への参加があまりないことから、どうしたら若者が政治への興味が持てるのか、どうしたら投票率が上がるのかを話し合い、もっと、政策について、難しく話すのではなく、若者に分かりやすく、ユニークにアピールして発信していけば、もっと広まるのではないかという意見が出ました。また、SNSやアプリを使って発信していくことで、もっと広がるのではないかという意見も出ました。

次に、コロナ禍の大学生の生活実態と行政に求める支援として、保育と介護の学校では実習がありますが、実際に実習に行けないまま、私たちはこれから現場に出て、就職をします。1回しか現場に出ることができなかつたので、ほかの施設の状態がよく分からずに、うまくやっていけるか、とても不安な気持ちを抱えています。

さらに、バイトができずに収入が減っています。コロナに対する緊急の奨学金があっても、学校で二重制限があったり、第一種の奨学金を借りている人に限られているなど、必要な人全員がもらえているわけではないことが挙げられました。

(Aグループ学生②)

最後に、県議会の広報についてで、広報紙「こんにちは県議会です」は、最近の人たちは、新聞を取っている人たちがだんだん少なくなっているということから、インターネットでの発信が効果的ではないか。また、インターネットに掲載している県議会の広報は、文字が多かったり、読みにくかったりするもので、もっと分かりやすく、読みやすくすれば、伝わり安くなるのではないか。ツイッターとYouTubeを活用しているということから、今の若者は、インスタグラムが主流になってきているので、それにプラスしてインスタグラムも始めたら、もっと読んでくれる人が多くなるのではないか。このような意見が出ました。以上です。

(清水副議長)

ありがとうございます。とても参考になりました。

それでは、感想として寺沢議員、お願いいたします。

(寺沢議員)

私の娘たちと同じ年の学生さんたちと今日はお話しができて、いろいろ御意見、御要望をいただきました。議長も一緒のグループでしたので、ぜひ、県議会としていただいた意見を議論して、少しでも支援ができればと思っておりますし、ユニークにということですので、ぜひ、これからはユニークに県議会の広報を発信していきたいと思えます。

〇〇さんと〇〇さんは、これで卒業、就職ということですので、どうぞ頑張ってください。就職先はとても必要な業種なので、どうぞ頑張って働いていっていただければと思います。応援しております。本日はありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございます。

それでは、Bグループの発表担当の学生さん、お願いいたします。

(Bグループ学生③)

私たちBグループでは、子育て支援と介護支援と、地域活性に向けた移住・定住について話し合いました。

子育て支援・介護支援では、主に子育て支援の話をしました。貧困家庭の支援の充実や、看護学生の方がいらっしやっただので、子育てをしながらのキャリアアップを目指すために、保健師などが県と連携を取り、援助できる関係構築が重要だとの意見が出ました。また、親同士が育児への不安などを共有できる環境づくりが重要である、男性目線から男性向けの育児のセミナーの開催などが効果的であるという

意見が出ました。

次に、移住・定住に関しては、県内全体で高齢化が進んでいるので、子育て世代の移住が重要であるという意見が出ました。また、農業の従事者の衰退なども問題として挙げられました。移住・定住への壁として、田舎独自の村社会の感覚が存在していることが問題としてあるので、多様性を受け入れる環境づくりが大事だという意見が出ました。

また、コロナ禍における大学生の生活実態と行政の支援においては、食糧支援はすごく効果的だという意見が出たのと、学生生活においてのイベントが、かなり制限されてしまったので、県からのプレゼントのようなイベントなどがあつたらいいという意見が出ました。また、学生同士の交流の場が築けないという意見も出ました。

県議会の広報については、コンビニでアルバイトをしている学生からの意見で、コンビニのフリーペーパーは結構読んでくれる人が多いことから、コンビニなど誰もが立ち寄る場所に、いつも広告のように出すのが効果的であるという意見が出ました。また、文字が多いという意見が出たので、写真やイラストなど活用していくことが重要だという意見が出ました。以上です。

(清水副議長)

ありがとうございます。

それでは、Bグループで私のほうから一言だけお話しします。とても充実したいい時間をいただきました。県外から長野県に来ていただいている学生さんが、2人メンバーの中に入っておりまして、県外から来た皆さんからの長野県の良さも教えていただきましたし、いろいろな意見も教えていただきました。

特に、地域の活性化に向けた移住・定住について意見交換をしましたが、とても目からうろこというか、着目観点がやはり若さゆえに違うと感じるようなお話もたくさんいただきました。

50分という時間は、あつと言う間で、一つのテーマが10分程度であり、皆さんがさわりの部分を言っていて、そこから深掘りして、私たち議員が知りたいところまで行き着くまでには、四つのテーマは多すぎたというのが、私の率直な感想でした。

それでも、議会の広報として皆さんの御意見を聞け、そして県議会の活動を分かっていたかく、大変大事な時間を与えていただいて、本当に心から感謝を申し上げます。ぜひ、長野県議会のツイッターを、フォローしていただくというお願いもできましたので、引き続きつながっていただければと思います。ありがとうございました。

それでは、Cグループの発表担当の学生さん、お願いいたします。

(Cグループ学生④)

僕たちのCグループは、まず、気候変動と環境問題に対応した環境教育について話をしました。まず、最近、店でレジ袋などが廃止になったということについて話しました。例えば、レジ袋の代わりに自分

でバッグを持ち歩くとと思いますが、学校などで新聞紙を使ってバッグを作ることを教えたりして、教育面で、レジ袋の代わりとなるようなものを作ることを、少しずつ広めていくのもいいのではないかという話になりました。

もう一つのテーマは、情報バリアフリー社会の実現についてです。目や耳が不自由な方が、情報機器などを使って不自由な目と耳の代わりになるような社会の実現をするという話ですが、今、長野県は目と耳が不自由な人に対して、どういうことをしているかという話を聞きました。例えば、ユニバーサルデザインを活用した標識の設置を進めていたり、図書館で本を朗読するサービスを行っているという話を聞きました。デフリンピックという耳が聞こえない人の世界大会が行われますが、それを長野県でも支援をしたらいいのではないかという話になりました。

次は、議会からお聞きしたいテーマですが、「コロナ禍の大学生の生活実態と行政に求める支援について」です。大学生に対する支援では、何を支援してほしいかという話をしました。主に、オンライン授業でインターネットを使いますが、大学にはインターネットが整備されていますが、オンライン授業を家で受けたいが、家庭にインターネット設備がない学生もいるので、例えば、学生たちにWi-Fiを提供するというサービスを行ってほしいという話になりました。

次は、広報についてです。広報は、まず、見た目については、文字が多く、写真が小さく、見づらい部分があるという意見が出ました。あと、新聞を取っていない学生が多いため、手元に広報紙が届かない人が多いという意見も出ました。学生に見てもらうためには、大学に配って大学の掲示板などに貼ったり、大学にメールで送ったりするのがいいという意見が出ました。以上です。

(清水副議長)

ありがとうございます。

それでは、宮下議員、感想を一言お願いします。

(宮下議員)

ありがとうございました。様々な意見交換ができて、とても有意義でした。特に、学生さんの実態ということで、寮などが完備されている皆さんはいいですが、アパートでWi-Fiなどの設備がない皆さんもある程度いらっしゃるの、その辺の支援が、一番肝要かというお話をいただきました。

あと、県議会の広報についてですが、お話のあったように、写真やSNSの工夫が必要であり、新聞を取っていない学生さんは、今、インターネットを使う方もだいぶ多いので、折込みの広報紙はほとんど見ていないということでした。今日、実施した議場の説明のような動画が、非常にいいという意見をいただきましたので、今、高校生の皆さんが、議会広報番組を制作しているので、ぜひ、見ていただきたいというお話もしました。

今回のような議員や他大学の皆さんと意見交換ができるということも非常に良かったので、こういう機会をぜひ、増やしてもらいたいという貴重な意見をいただき、ありがとうございました。ぜひ、県議

会で、いただいた御意見を活かしていけたらと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

それでは、Dグループの発表担当の学生さん、お願いします。

(Dグループ学生⑤)

まず、私たちは学生が意見交換をしたいテーマとして、長野県のレジャー施設の建設についてと、市町村をまたぐ公共交通機関の充実についてという二つを絡めて、最初に話し合いました。長野県は、ほかの県に比べて大々的なレジャー施設がないことで、遊びに行く場所が少ない、公共交通機関の本数が、1時間に1本と少なく、待ち時間に何もすることがないという意見が出ました。

そこで、待ち時間をつぶすという意味では、駅周辺に、例えば、カフェや交流スペース、勉強できるところをつくって、沢山お金を使わなくても、立ち寄りやすく、待ち時間をつぶせるそういった施設があることで、駅周辺に活気があふれて、興味を持ってもらえるまちづくりができるのではないかという意見が出ました。レジャー施設となると、大規模なものがあると思いますが、新たに遊園地を建設するのではなく、今ある豊富な自然を活かし、きれいな山を利用して、スキー場など、ある資源を使って新たに楽しめるレジャー施設ができればいいという意見が出ました。

続いて議会から聞きたいテーマとして、「都市部と地方の格差」というテーマについて話し合いました。長野県から都市部に出て行く若者が多いという話がありました。グループの学生のなかでは、地元で愛着があって恩返しをしたいという気持ちがあって、地元に残りたいという人が多かったですが、都市部に出て行く人は、都市部でしかできないことがあったり、自分のやりたいことをやるために選択肢が多い都会に出て行くと思いました。もちろん、夢を追いかけるのも大事だと思いますが、そういった人たちが、地元が懐かしいと思ってもらえるように、人と人のつながりをもっと大切にして、ふとしたときに、戻ってこられるような環境があればいいのではないかと思います。

また、格差については、やはり、公共交通機関が都市部に集中していて、田舎のほうが交通インフラが整っていない。このことについては、県議会というよりも、国全体で取り組んだほうがいいという意見になりました。

三つ目に県議会の広報についてです。県議会の広報のページを見て、情報がとても整理されていてシンプルで写真もあって分かりやすかったですが、重要な情報がたくさんあって、どれが一番大事なのかという優先順位が少し分かりづらいという点がありました。議員の皆さんは、日々いろいろな議題を吟味してくださっていると思いますが、例えば、コロナ対策はこれをやっていますと、情報を絞って表示するのもいいと思いました。

また、若者は、電子媒体のほうが分かりやすく、高齢者の方などは、新聞やペーパーのほうがいいと

思うので、両方の媒体で配信したり、例えば、図書館などいろいろな人が使う公共施設に広報のチラシを置いたりしたら、いろいろな人が、県議会について知ることができていいと思いました。

最後に、若者の政治への参加について話し合いました。政治への参加ができない理由については、住民票を移していないため地元まで戻って投票しないとイケなく、新型コロナウイルスのため地元に戻れなくて投票できなかった、就活が忙しくてできないなど、いろいろな状況があってできない人がいました。不在者投票や期日前投票など、事前に投票できることをもう少し周知したり、そういう制度があるということを知ってもらうことも大事なのではないかと思います。

また、政治への興味についてですが、友達との日常会話の中で、日本の外交はどうだという話はなかなか出てこないと思います。議員さんの中から、少子化がどうであるかなど、自分の生活に身近だと感じ取られるように、政治について話ができたらいいのではないかという意見が出ました。以上です。

(清水副議長)

ありがとうございます。

それでは、感想として、清水議員、お願いいたします。

(清水議員)

ありがとうございます。今、〇〇さんから本当に的確にまとめていただきました。こちらは4人の学生さんが参加予定でしたが、お二人が欠席で、学生2人、議員2人という4人で意見交換ができましたので、かなり細かくやり取りができたのではないかと思います。こういった少ない人数もいいのではないかと感じました。

お話の中にありましたが、若者が都市部に出て行ってしまっって帰ってこないという中で、参加していただいたお二人とも、地元で恩返しをしたいため、地元で就職するというお話でした。結局、小さい頃にお世話になったり、いろいろな方々に温かい心遣いをしていただいたという部分が、たぶん心のどこかであって、それで恩返しをしたいという気持ちになっているのではないかと感じました。やはり、都市部に出て行ってしまった人たちに戻って来てもらうには、小さな頃からそういった心と心の触れ合いをしっかりと地元で感じとって、地元で恩返しをしたいという気持ちが、自然に生まれるようになることが大事ではないかと強く感じました。

あと、若者の政治参加ですが、先ほど、御意見をいただいたように、政治に参加できないいろいろな理由があるにしても、それを排してでも政治に参加したいと思えるように、身近に政治があることを知っていただくことが大事であると思いました。平日頃、なかなか友達と政治の話はしないということでしたが、実際、生活している中で、コロナのことも、灯油とガソリンが値上がりすることも、やはり政治が関わっています。出生率が低いということについても、今、国はこんな対策、県はこんな対策をしているということもぜひ、知っていただきながら、自分たちの住む地域ですので、もっと良くなるために御意見をいただきたいと思いました。以上です。

(清水副議長)

それでは最後に、Eグループの発表担当の学生さん、お願いいたします。

(Eグループ学生⑥)

こんにちは。私たちは、4点について話し合いました。まず、大学生サイドからは、気候変動と環境問題の教育をどうしていくかということについて議論をしました。そして二つ目は、情報バリアフリー社会の実現についてお話をしました。議員サイドのほうからは、都市部と地方の格差について取り上げさせていただいて、残りは、県議会の広報について話し合いを行いました。

まず、大学生サイドから提案した気候変動と環境問題の教育についてですが、まず、気候変動と環境問題は非常に大きな問題で、なかなか身近にイメージすることができない、イメージしづらいというところが、前提として共有した認識になりました。そうしたときに、では、どうするのか。そう考えたときに、例えば、小学生に対して教育するときは、もっと身近な問題で提案していく必要があります。中学生もわかり、高校生もわかり。では、大学生になったらどうか。自分たちで、どうこの気候変動について取り組んでいけるか考えてみようというところで、それぞれのターゲットに、よりフィットした形で気候変動・環境問題という教育を行っていく必要があると思っております。何よりもその教育をするときには、楽しめることが大切で、楽しんでいけるようなアクションを起こしていけるといいと思いました。

和田議員からの提案としては、ゼロカーボンの採択を長野県議会では行っている。こういった取組は、全国でも先進的な取組なので、こういったところも含めてPRしていくと面白いのではないかとといったところで意見がまとまりました。

二つ目、情報バリアフリー社会の実現についてですが、そもそも、この情報バリアフリーとは何だろうというところから話が始まりました。実は、この言語が異なるということも情報バリアフリーに含まれ、海外の人が長野県に来たときに、文字が読めなく、どうすればいいのか分からない、これも情報バリアフリーであるという意見がありました。

もう一つ、こういった課題に対して、長野県はどういった対策を行っているのかというところがあり、例えば、長野県のホームページを見ていただくと、音声の読み上げ機能があったり、文字の拡大・縮小が、比較的簡単にできるようなサイトの設計になっています。実際、こういった機能がどれぐらい使われているのか、どれぐらい役に立っているのかは、例えば、Cookieを使って情報収集をしていくと、よりその効果が目に見えて分かるようになります。効果が目に見えるようになれば、例えば、民間企業のサイトでも音声の読み上げ機能を使ってみようとしたり、文字の拡大・縮小をより簡単にできるようなサイトに変えていこうとします。民間企業にも働きかけができるという意味でも、そういった情報収集を行っていくと面白いと思います。

最後に、当事者になったときに気づいては遅いので、自分や周りの人が当事者になる前に、積極的に

情報バリアフリー社会の実現に向けて動いていくことが、大切であると思いました。

三つ目、都市部と地方の格差ですが、まず、長野県で就職をするといったイメージがないというところは、学生の共通認識としてあります。やはり、大学に行くとなったら、都会に行ったほうがキラキラしているし、いろいろな出会いもあるだろうし、楽しいところがたくさんあります。長野県に戻ってきていただく、もしくは長野県に来ていただくときに、格差が一つネックになってくると思います。

ここでの提案ですが、その格差をもっと前面に押し出してはどうでしょうか。例えば、長野県には、東京にない豊かな自然環境があるという格差をもっとPRしていくと面白いと思っています。また、信州大学は、県外の学生が8割いるらしく、こういった大学と連携して、都市部の学生を長野県に呼び込むというのも面白いと思います。

最後に、県議会の広報についてですが、まず、1人の学生の意見として、県の広報というものが高校の廊下に貼ってあったそうです。そういった経験を持つ学生もいるので、目にしてもらう機会をいかに増やしていくのかということが、大切だと思っています。

もう一つ違う観点から言うと、今の広報は、長野県民全体に対して広報をしていると思います。先ほどEグループの話にもあったように、若者はインスタグラムを使っていて、働いている人は、フェイスブック、ツイッターを使っていたりします。それぞれのツールによって、ターゲットが異なってきます。例えば、全部のツールを使ったとしても、ターゲットに合わせて広報できなかつたら、それは意味がないと思います。その広報のターゲットを定めて、それに最適化した広報を行っていくべきであると話がまとまりました。

最後に、議会の硬さ・真面目さをどう変えていくかということところにも話が及びました。この硬さ・真面目さをより柔らかくしていくことが必要であり、県議会は、国会議員よりも自分たちの生活と密接しているのです、そういったところをよりPRしていくと面白いのではないかと考えています。以上です。

(清水副議長)

ありがとうございました。

それでは、感想も含めて、和田議員、お願いします。

(和田議員)

Eグループの意見交換の四つのテーマについて、とてもうまく〇〇さんにまとめていただいたので、皆さんにお分かりいただけたと思います。先ほど、清水副議長からも言われましたが、今回とてもよいテーマが盛りだくさんだったので、もう少し話を深めるためには、グループの話し合う時間をもっと欲しかったというのが率直な感想です。

今日は、気候変動のこと、環境のこと、情報バリアフリーについてと普段考えないようなテーマでしたが、学生の皆さんは、すぐに日頃の自分たちの暮らしや自分の周りの人たちと結びつけて、豊かに想像して発言していただき、話が発展していきました。とても貴重な経験をさせていただきました。こう

いう機会をまた持てたらいいと思えました。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

各グループから発表していただき、皆さんのお話の内容がよく分かりました。

○全体の意見交換

(清水副議長)

それでは、ただいまの発表も含めて、せっかくの機会でもありますし、いま一度少しの時間がありますので、先ほどの発表に付け加えたり、それに対して思うことがありましたら、学生さんの方、議員の皆さんでも構いませんので、発言される方はカメラに向かって挙手をしていただいて、併せてマイクをオンにして、名前と発言したい内容を伝えていただきたいと思います。私が指名しましたら、発言をお願いします。

それでは、どなたかいらっしゃいますか。

(学生⑦)

ありがとうございます。

グループの発表をお聞きして、自分たちが話し合ったことと同じ内容でも、全く違うような意見が出ていたり、考えつかなかったテーマについて話されているのを聞いて、この後に、もう一度、各グループに戻って、皆さんの話を聞いて思ったことなどをグループで共有できたら、もっと深まるし、違う話題についても話せるので、面白いと思えました。いろいろな意見が聞けて楽しかったです。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございます。そうですね。形として、またアレンジができれば、次回に活かしていきたいと思えます。ありがとうございます。

ほかに、学生さんのほうからどなたか、いらっしゃいますか。

(学生⑧)

ありがとうございます。私からは、長野県議会としての方向性についてですが、もっと観光に力を入れていただきたいと思います。今、コロナ禍で観光は厳しい状態が続いていますが、このコロナ禍が終わった後に、日本人もですが、海外から多くの観光客が長野県に入ってくると思えます。そうしたときに、その人たちをどう長野県に滞在させて、お金を落としていただくのかということをもっと、話

し合いを進めていただきたいと思います。

例えば、今、長野県のホームページを見ていますが、長野県に宿泊する訪日外国人の方は1.4%しかいないです。せっかくこんなにすばらしい自然があつて、海外にないものがあるのにもかかわらず、たった1.4%の外国人しか長野県に滞在していません。もっと長期滞在していただけるように、長野県議会として考えていただけると面白いのではないかと考えております。以上です。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございます。「観光立県長野県」というテーマで、どなたか議員のほうから、これに対してありますか。いいですか。では、ほかの学生さんからありますか。

(学生⑨)

Eグループの意見を聞いていて、インスタグラムでは、若い人向けに砕いた内容で発信していき、ツイッターなどは、大人向けに難しい表現でも大丈夫というのを聞いて、そのとおりであると思いました。自分たちのグループの内容に絡めて思ったのが、子育て支援に対してもそうですが、やはり、若いお母さんには、インスタグラムで、砕いた言い方で支援内容などを伝えてもらったら、子育て支援にもつながってくるのではないかと思います。

(清水副議長)

ありがとうございます。

ほかにもどなたかいらっしゃいますか。

では、議員のほうから、感想も含めてでもいいです。

小山議員、一言感想どうですか。

(小山議員)

みずみずしい柔らかい貴重な御意見をいただいて、本当にいい時間だったと思いましたが、やはり、もっと話を深めたかった、意見交換の時間が短かったというのが印象として残っています。夢が県議会議員になることとおっしゃった学生さんがいらっしゃって、驚いたとともに、地元の県議さんが、とても立派に御活躍いただいているということを感じることができて、励みになりました。

また、こういう機会がたくさん持てるといいと思いましたので、また、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(清水副議長)

ありがとうございました。

丸茂議員、感想どうですか。

(丸茂議員)

自分の学生時代を振り返ると、本当に恥ずかしくなるという印象でした。自分は若い感覚でいましたが、知らず知らずに歳を取っていて、新しい柔らかい感覚というものを今日、聞くことができたので、これからも頑張っていきたいと思います。今日は、本当にありがとうございました。

(清水副議長)

せっかくですので、望月議員、どうですか。

(望月議員)

私もこういう機会に、初めて参加させていただきました。普段お話しすることのない大学生の皆さんとこういう機会を持てたこと、本当に勉強になりました。また、ぜひ、こういうところに参加させていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(清水副議長)

では、毛利議員、一言どうぞ。

(毛利議員)

今日は、貴重な時間を共有させていただきまして、大変うれしく、ありがたく思っています。ありがとうございました。大学生の皆さんのまとめる能力の高さには、びっくりしました。端的に短い言葉で、伝えるべき内容をきちんと伝えていただいて、すごいと思いました。

やはり、Instagramは、私ども大事だとは思っておりましたが、議会広報にInstagramも使ってはどうかという提案もいただき、なるほどなと思いました。

いろいろな提案をいただき、大変、参考にさせていただくことが多かったと思います。やはり、時間が短かったです。逆に、テーマが多かったという気もしたので、だんだんこういうことを重ねていく中で、私どももよく学習して、一層充実したものにできればいいと思いました。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

次の教訓にしっかりとつなげていきたいと思いますので、よろしく願いします。ほかにも御発言もあろうかと思いますが、時間の都合もありますので、次に移らせていただきます。

○議長所感

(清水副議長)

最後に、宮本議長から、今回の意見交換会を踏まえての感想とお礼のごあいさつをさせていただきます。

宮本議長、お願いいたします。

(宮本議長)

本日は、本当に率直な、そしてまた活発な意見交換で、御意見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。若い皆さん方の今のいろいろな思いを聞くことができ、大変有意義であったと思っております。

先ほど来、お話がありますが、コロナのこの世の中で、大きく私たちの生活、社会が変化をしてしまいました。そういった意味で、皆さんお若い方々は大変な時代に遭遇していると認識しています。学問とのつながり、また人と人とのつながり、そしてまた、社会とのつながりなど、コロナは一番大事なつながりというものを全て奪い取っております。こういった状況の中で、これに耐えていくことも必要ですが、問題は、この状況の中でどうやって生きていくか。これもまた、大きな大きな課題であると思います。

その中で、皆さんには本日のお集まりに参加いただきまして、そしてまた、それぞれの立場でいろいろな御意見をいただきました。それが、とりもなおさず、このコロナ禍の中でもコロナに立ち向かっている、チャレンジしているということにほかならないと私は思っております。着実に皆さん方は、学びを通じて、そして積み重ねて、目標に向かって歩みを進めていると感じました。皆さん方の目標を達成するために、これからも大いにチャレンジしてほしいと思います。必ず、経験やいろいろな苦労というのは、皆さんの人生の糧になるはずであります。本日をきっかけに、ぜひ、県議会、そして政治にも興味を持っていただきたいと思います。

私たち議員は、本日いただきました貴重な御意見を受け止めまして、今後の議会活動に活かしてまいりたいと思っております。そして、もっともっと分かりやすい、身近で開かれた県議会を目指して、これからも議会活動を続けていきたいと改めて本日思いました。本当に貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

(清水副議長)

宮本議長、ありがとうございました。

○閉会

(清水副議長)

以上をもちまして、「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」を終了いたします。学生の皆さんにおかれましては、長時間にわたり熱心に御参加をいただき、誠にありがとうございました。また、オンラインの開催ということで御不便な点もあったかと思いますが、御協力本当にありがとうございました。

また、来る2月16日からは、長野県議会2月定例会が始まります。皆さん、もしお時間がありましたら、議会の傍聴も含めて、皆さんのお声がどのように届いているのか、議員の発言にも注目をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

なお、学生の皆さんにはアンケートに御協力をいただきたいと思います。先日、事務局からメールを送らせていただいておりますので、2月13日日曜日までに、Googleフォームにて御回答をお願いします。

それでは最後に、皆さんとお別れの手を振って写真を撮りたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、皆さん本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。議員の各SNSに上がると思っています。

それでは、終了いたします。本日は本当にありがとうございました。